

地域包括ケアシステムにおける高齢者の社会参加活動
—高齢者ケアとしての紙芝居に着目して—
Social Participation Activities by Older People in the Community-based
Integrated Care System : Focusing on "Kamishibai" in the Older People Care

学籍番号：201921629

氏名：久保田 泉

Kubota Izumi

日本は現在、世界で最も高い高齢化率で少子高齢化が進んでいる。2019年10月現在、総人口に占める65歳以上の割合を示す高齢化率は28.4%となり、社会を支える担い手の不足が課題とされている。少子高齢化の課題に対応する、国の対策のひとつに地域包括ケアシステムがあり、地域の担い手として高齢者の社会参加活動が求められている。

高齢者の多様な社会参加活動のひとつに、2000年前後から主に介護施設で行われてきた高齢者ケアとしての紙芝居上演がある。2009年には高齢者向け紙芝居の出版が始まり、介護現場を中心に活用されている。本研究の目的は、紙芝居を活用して高齢者ケアを行う社会参加活動に着目し、紙芝居の演じ手である高齢者に焦点を当て、紙芝居上演に関する活動の現状と課題を明らかにし、地域包括ケアシステムにおける高齢者の社会参加活動を検討することである。

本研究では、文献調査とインタビュー調査を実施した。文献調査では、地域包括ケアシステムにおける高齢者の社会参加活動および高齢者ケアとしての社会参加活動の現状と課題を明らかにするために、図書、学術論文、政策文書を中心に調査を行った。また、文献調査に加えて、高齢者向け紙芝居の編集者・監修者にインタビュー調査を行った。さらに、高齢者を対象にした紙芝居上演の目的や意義等を明らかにするために、高齢者に紙芝居上演を行う高齢者ボランティアにインタビュー調査を実施した。

これらの調査結果から、高齢者が高齢者に紙芝居上演を行い、演じ手と観客が場を共有しケアしあうことは、相互の社会参加活動として機能しており、地域のネットワークの構築を促進することが明らかになった。加えて、高齢者向け紙芝居は、地域に介護の拠点を広げるコミュニケーションツールである可能性が示唆された。また、本研究における高齢者ボランティアの社会参加活動を通じた役割と可能性は、居場所づくり、関係づくり、自己表現という結果となった。これまでの考察から、地域包括ケアシステムにおける高齢者の社会参加活動の検討を行い、老いと折り合いながらシームレスに活動を継続し、自分の好きなことで他者を喜ばせ、可能な限り自分のペースで自由に活動を行うことの必要性を指摘した。

また、今後の研究課題として、紙芝居上演を鑑賞する高齢者への調査等を通して、高齢者の社会参加活動を双方向の視点から分析を行うこと等を述べた。

研究指導教員：呑海 沙織

副研究指導教員：綿拔 豊昭